

板山地区での新たな移動手段の導入について

■報告事項概要

令和 7 年 4 月の知多半島総合医療センター開院に伴い、路線バス等の移動手段を確保する必要があり、既存の半田・常滑線を一部変更することも選択肢の一つとしています。このことが実行された場合、半田・常滑線の沿線上にある板山地区では、公共交通が空白となるため、現在、地域住民で結成した板山バス会と新たな移動手段の導入について協議中であり、下記のとおり報告するものです。また、併せて板山バス会から半田市に、調査、協議の結果を踏まえた提案、要望として、要望書の提出がありましたので、一部抜粋し、要約して報告します。

■板山バス会からの提案、要望（一部抜粋、半田市要約）

1. 基幹バス路線変更による影響

- ・現在検討されている半田・常滑線の路線変更によって、県道 34 号の沿線住民を中心に、約 6 万人回ほどが影響を受けると推計し、これは市のコミュニティバス地区路線 AB の利用者数に比するものであるため、路線変更による影響は小さいものとはいえない。

2. 板山バス会での検討経過

- ・半田市地域公共交通条例や、市内公共交通網等の現況確認、板山地区の移動需要、基幹バス路線変更による影響の協議、導入する移動手段の形態ごとの特徴の把握や公共交通に関する地元アンケート調査の企画、実施
- ・アンケート結果の要旨として次の 3 点を列挙

①知多バスの利用状況

地域住民の約 11%がバスを利用しており、朝夕は通勤通学者、昼間は通院、買い物等の随時利用者の利用がある。

②移動弱者の現況

免許非保有者と 5 年以内の免許返納予定者を合わせると、移動弱者は地域住民の約 2 割と推定された。

③新公共交通に関する高い期待

片道 300 円程度の乗合型の新公共交通手段に対して回答者の半数以上が期待している。

3. 板山地域における路線変更後の公共交通についての提案

- ・『朝夕は基幹バス路線を継続確保し、昼間は小型で自由度の高い、おでかけタクシー等によって移動手段を確保する』ことが適当ではないか。

（付帯条件（おでかけタクシー部分抜粋））

他地区でのおでかけタクシーの先行ケースでは、乗降範囲を概ね 3 km圏内としているが、農村地帯にある板山地区においては、それより広範囲にならざるを得ない。乗降先には主要鉄道駅を含むニーズの高い施設（アンケート調査結果）を設定したい。

裏面へ続く→

4. 以上を踏まえた半田市への要望

- ・上記提案は、基幹バス路線変更による影響とアンケート調査結果、地域の移動弱者の見通し等を踏まえて、バス会として慎重に検討した結果であるので、内容を尊重した公共交通施策を講じていただくよう要望する。

■半田市の今後の方針

- ・知多半島総合医療センターへの移動手段確保もしくは、半田・常滑線の経営改善に伴って、半田・常滑線の運行内容が変更され、板山地区の公共交通環境に影響があれば、代替手段の導入によって対応します。また、代替手段は市内で導入実績のあるおでかけタクシーを想定しています。
- ・半田市地域公共交通会議における、導入に向けた実証実験等の協議については、目的地等様々な条件が決定した後、行うこととします。ただし、協議の方法については、おでかけタクシー制度の内容は、既に他地区への導入で確立されており、板山地区の目的地を適用するだけであるので、同時期に他の協議事項等が無ければ、対面ではなく、書面で行うこととします。

■（参考：抜粋）現時点での目的地候補

①青山駅	⑩JA板山支店
②スギ薬局青山店	⑪ちたしん板山支店
③新半田病院	⑫結生クリニック
④FEEL・Cフェスタ	⑬板山郵便局
⑤知多半田駅	⑭ショッピングプラザ・ララ
⑥半田市立図書館・体育館	⑮雁宿ホール
⑦ベシア常滑インター店	⑯三菱UFJ銀行半田支店
⑧常滑駅	⑰半田医師会健康管理センター
⑨アオキスーパー清城店	⑱サンドラッグ北ニツ坂店
⑩イオン半田	⑲半田眼科
⑪春田内科	⑳常滑市民病院
⑫FEEL・エクボ	㉑ピアゴ・ラフーズコア
⑬間瀬医院	㉒ブリオ
⑭半田運動公園	㉓花井クリニック
⑮カーマ半田店	㉔FEEL常滑店